月月抄

こゝ

十

四

秋山共藏書

帝國文庫

胡蝶 并二 花以詞 并歌為巻名 花園の胡蝶

とえやとに栄にけりけいうくちもちん 胡蝶とぐ
うちありて胡蝶とつくさうの詞 花 初春の色に同
年のるすく 但 是は三月四月のまとをるきりの異也
細函月 愚按 巻よりまの巻のはるの海つのりこたに
ちてとめるあるよ 細流を新造の翌年なれてこそ みの春ま
川園にとつぎのくさくさくさ

の人く樂とつくくく
あの玄中のその八　細花　盃し女さよ
よぶくよくよと扶ぬよりくくの花を千とくくくくくでいと文俊
つるでなくてくくくくよ
細月ぶくくの俗の中よ
と中文いやくくせぶくも
くくくくよ仕方へ添れ
あくくよいなくくく背
の中文なぶいくくよ
月俗中くくもくくく
くくくくぬ紙を
つけてくぶくくくくく
くくくく女房くくの
花中文もけれ俗里よ
やくくせどくくくし
くやくくくれぶくくく
ドになくぶせてのよ
よ女房を文よのをあ
よて菊のやくくの中
の池へくくあくくく
我中文の女房を文よ
のをて紫の方をくくく
菊の池のくくよ
細　朱雀の町と菊中く

ものわいくくく漕あくく
ちくくれ山をへぶてのくく
水文くくくれくくくくく
くくくくのくくくくん
詩歌鶺鴒　細紫上の方女房京家くくく月俗よのくくあくぶ
准南子云龍舟鷁首注高
誘云鷁水鳥也畫其象
著船首以禦水患云云
細　前よくくくめくくと
えもけ事也詩いくと
ふをくよ紅をくくく物
鶺い風とふくくく物
物なれくくれたくく
めの日ハ雅樂つくくの人
ゆて水の樂をくくの来
よ詩歌鶺鴒よ女くくの
をくくよ名樂以後のけに
やけ文に文のくくくの
をいやくくくくくの日し
後の後ハ中文の季の俗後絶
よ紫のくくく伝花あく
しくく
中後の人に細前へくくえ
ふくく山のあ三中後乃

細　中後あくくくくれど薄くくくくくれ
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

[illegible]

細 花名の所見も西西
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 細文集の白を引、美のくい不老不死の業ハ仙人の業陵く何列[illegible]蓬莱[illegible]
仰舟中老[illegible]と云とそうそて蓬莱を求ぶそして舟中より老さう名をのこさんとく
美の見れ[illegible]より 抄眼前の[illegible]
[illegible]も[illegible]ん 細桃源記云武陵人捕魚縁渓行
忘路遠近忽逢桃華夾岸云云 河續斉諧記云漢明帝時劉晨阮肇
二人共入天台山採藥迷失道路云云 愚案是も仙境
[illegible] 河皇麞[illegible]調
細平調樂也 私云平調
を用るは[illegible]の調より也を
不審より仰[illegible]平調の拍
子をつい金の多拍
路拍平調ハ呂律和[illegible]
て[illegible]中を切[illegible]
より拍子の調より用之云
[illegible]
[illegible]て
細[illegible]
[illegible]
盃酒[illegible]
[illegible]の[illegible]
細[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中の巻りひよりえらひさ
細豊国より官位も授し
さんしゐよりとも
えんどうしおおぬ人ゆか
しとも盃わづ月のそ
と駿級をもとも
ふく伝聞きこの中
よりひいあらるべく
ちあるものもえれば

しとうちある中のえひよりえらびさわ
さんぶらるべとあるべ。そうにて細ええ
のうちとて内府く
どく細豊きこの
うふうてくうう。細豊きこの
えんぶ二年八月廿日の智恵のう花嘉吉に
ものうとうとひく。
このこせどうひうずとみくびみ
べうけどうて細ひ
もいてうそうそうれしてふらのく
れをべておびそうどうさまんて品さ
細氏
ぬいて世ぬぬうて細れて
えさよいゆがとどせうてうどべけとり
ううふれの
のついべよふうも

うどさ　細
ざれうの乗えやり
くううくげうどよ
いてべうさえれふう
きこうやう
と　細氏の歌の中にある
もうううさうのうれ
と連て作あるべと
ゝゝ

巻の　細花と閑よりうる
をしく後撰しうきう。
えうひも知ね文の伝う
うくば物語よい多うせ。
歌花に絳也花ふう
文八微よ伝のは女とん
ゆて巻の中とい後文
是ばいよりれゆう
のえとうべうう
友花と巻の国よえ
ううう
花ううべ　細　花の花の
べうう伝の紙花しう
ひうのよえうう同
しうべうとうえはせ
ゆとうふう花今系等
つえ連枝よおうせ
くううべかべ。
えまつれまとはう
づきとううせう
師ううえうべれて
友花とべうてなび
えうべれ伝うりそ
ゆうべ花とうえて

古巻とう
てうやうえう
べるまいう
巻うう
ひうえうう
盃閑よりうえうう
らよえうう
巻閑
えうべ
うう伝う
ゆよう紙うびつべーやとこのうう花
のあううどう
巻アアう
巻ものうう
盃青のうくれ
巻うう
びまうう
巻ものう
えうのうう
巻うう
べやまえ

の天よりあまくだりてまうでたるやう
ちりはなれとも細氏色とも云ふ〳〵ぐとくぶ
ものとうけつべきなどとおもひて花のうちとまりて
ふみをかなり
けさのはあるひおもひまで紅ゆかりをもとめ
しるべ八月廿三日
中文の法ど絶 細三月〈三月もちかくなるべし〉二八月よりうるはしく
ひらく 白雲の法絶とうひらくべし 紅紫云雲御讀經事 四ケ日 二月或三月 日時僧名定 未重日 法ひろまる 四ケ日 廿二日
有引案 卅三日有御論義 紅紫云 法師あやまれり別よりなる
日のはじめ 花法あやまれり別よりなる 直長い者長く 衆中八時のしたしく
ふくべく 細東寺ケ河と花多よりなる 孟故法の流退おく 細中文の中方へうつ
ふじまの時ぐうよ
と云ふ
まうの法 細氏とて落玉者
れつさ
くまうる
てうれ
そうて花のうちなる 細法よ
ひのれく 中文も一段
光華ちまち也

法のけ人の 細法文の法
師方うし 仏花と云ふ
はなてうとて
て法法供のつ
し法
多惟 細法外華人也
此法の樂よりは樂多
うるはし 乗二行花
移りうつりうつる
つ多樂の華人
いとの世
うるはし 細花花
龍の天の花の色
結ふ 金
南のはまの 細はのの
よ毋よのもう
うの法 細法花
ふ 実の花
まぐとひしぐり 白平張
花樂座のうし 細樂者
の奉 法花よ樂座
ぐさとうれともわぐ
映ちうるうちり

はうて海ちうの法のうへ 法文
花うてまつとまふうてふようぞき
はなてまつ
うるはくうへ八人ぐうるぐこと
くのうへ
ぐ光
やまぶさ
しく世
この中人
知法
まぐふ
まうるう
まぐとひ

法文 法師人樂四人
法の花
法の花
紅紫の

あづま　細　花紙下なり
花胡蝶と日本紀よりあ
づまとうたふ樂人の舞
人　胡蝶なるべしこう
とうけうたうたうべし
うたうづかうの人
盃ぐやうづかう　蜀人
よりもとりてまうし
唐よりの天よりもとりし
花ぞの　ひと女さう
まうのえわづや
しものとうぶまつ　ひ
しまうまう　細　秋はなの中
えの秋と云へ　仕出るとは
きそぐ　仕出るとは
仕様とはうくうてえ
るうくうく　師下花に
秋は出八代花園の胡蝶
の面白をえうくうみる
ふんく
四方の女房　細　四方の女房に
まうる女房ぐ也　花中
えの女房は去の弟さ
よりひうて中えう

盃　楽机の
うよあづまうくうどもをかうまうまうえ
どもみくしのまうまうよりてうれどもえて
まうぐやうづかうの　紫の
よりかうる絵　つぐまうつぐてあうに　岡仙寺
うえうさせまうあ　紫の
してうまうまう　盃　夕雲
花ぞの　紫
まりけいうまうえうえ　花なん
はうう姫まうまうう　きの
日の女房まうまうはうんど
結まづうまう　花まあれてうまうて
あうう　雲のうまうまうねよ雲のづく

胡蝶　九

胡蝶うまうまうまう　細　信とれも
花白白　手ぐ白　師　秋を
わとえよ
雲のうまうまうねよ
細　花れわ　花雲の四方
雲　細　の御　よあり
河　鳥　楽　加陵頻也　越調
てふいまして　細　蝶は日本
楽　花　色の色　よ　俗さ
れて　蝶の雲も　水色
四方　又は蝶の　よ　機の蝶
も　恋　ふ　蝶　あれ
不　見　花　てふいて　童
の　蝶　うまうまう　見
うく　用　武　蝶　不　雲
為院　内　蝶　造　田　見
書　アを　記　うく
うくくくもうあうう
やうも　盃　為　日　よ　日　うまう
まうまうやうく　師　親　よさ
しうまう　花　よ　うまう　世
ての　衣　をづけ　あう
うまうさ　うまう　細　うまう

雲　鳥　ふ　ひ　うまう　ぐ　よ　うまう
うまうまうまう　わ　さ　れ　ぐ　い　け　の　あ　色
うまうまうまう

うすう　腰羽　表紙の　細　元　元　元　元　元　元　元　元

なれどかな

あのかりてみだうへく女のさ
うぞく　乗女の装束とハ
裳ゝ　裳ゝ　裳ゝ　裳ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
のせあと　殿上の間の
ぐハ　ぐハ　ぐハ　ぐハ
ねよ　ねよ　ねよ　ねよ

岩倉の梅のかつえよ　細　ゝ
のねよ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

こゝ　細　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

細　紫上　中文　おどろ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ぬんとあり　花　見ハ西ゝの方ハ西ゝ
くあるくもいろもなるわざしとろ
ゆハるるくみあるくさいなるゝく人の
さをつく
くさいとらゝあり　細　只ものしくくて
ゆるゝくらゝくしゝ也

いでゝ　細　西ゝ
まばいづこ
まゝり　細　西ゝ
くもあゝ
よゆやどり　細　西ゝ
らゆやどみ
しゝもあり
けばらく

すくらゝよゆやどり　細　西ゝ
ゆやどらく　異　密通のこ
わるくゝれど後のゆや
よもらゝせやせゝ
原中物ハすらゝ
細　西ゝ
んつゝてゝ夕多ハ
後の見者のあいゝひ
をしゝ

ゝゝ夕多のゝ
夕多のありゝ西ゝの見
者とゆやどゝとんゝく
ゝゝゝ
内の見ハいゝ　細　西ゝ
ゝゝ見ハ西ゝの見者
ゝれハ女ゝもゝび
ゝゝゝ
ゝゝゝれ
細　花　西ゝ
の見ハ内
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ

これハどもかくて
孟夕新八様ようなる人な
てありしをいとと
ゝ不ゝ

細 ゝゝ
の方へ方くゝりの文
ゝゝ
と源のなげゝ
ゝゝ
ゝもと源のゝ
ゝゝ
あれと玉ゝ

てゝれいゝどもかくて
へのいまめゝ
月大気程夏清ゝ
ゝの気ゝ
ゝゝ
ゝゝげのゝ
ゝゝ
源のゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

古天狗　細　幾異也　文法
[illegible]女山の名木東文の
伯父ゑ　[illegible]
けてつゆよりのきつく
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すぐろよおるげれて
おほのみよけさういあ
れどもさすがよあい
でみくさをぐらるけさ
ふさるるくし

ませのうらは　細花花　玉
ぐ〜の若よさ〜ようを
のうりにうとはおくぬ
うよるりふぐさるす
しぐぞての河ようう
ゆくいしそうしうぐ
けくうあり
今さ〜に　花生さ〜花
りんと実の親をそうこ
細おろ〜い源を実又
はれるさ実の根ぐ
ないあくあるぐこと
非　とのろ世てしやとあり
を又のうまるるるて

らひ絵巻　玉　源の云
もうこ海のこしへまばゆるれい
えうちいぐ
きくませのう
ろまうるぐうれきまう絵巻へら
さられうけのいとうやうまゆひうらて
うるひくこ海のなけうきおうちと
みうまうて
源氏
ませのうらはねうくうこけのこれ
金沢文庫本
とのぐうくまやゆひうう人さ巻へうう
ぐ〜いこそうしこすをひさあげ
て嘆くまへぐおうあく
今さ〜にいるうんせうわう行のゆひと

玉　武蔵野のこと

じゃうんねをいぐのん　玉　ゆくまこそ絵
らあここて絵をいぐ源氏を義こうう
源氏　さいうろのうはこをおもこぐ
いうんあうこうんぞんとすんと
源氏の紅梅　源氏　義うれぐ義うのは
ううぐ人のいこあうぐこ武巻やここ
ぐれこうまし　実又うたこ
ううぐ人のいこあうぐこ武巻やここ
ものかうこうりこうれ絵こうぬいえうこし
源氏のうくさうう
もうあやうぐやと青和ぐうりまこ
まへみやうくやうぐ人のあうこ世申乃
あうやうをこうりまへぐいうこうう
ううこうこうれこまうんこはいこ
うぐうぐうぐやと　細　玉
源氏の絵　玉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和して
細樂天白 白文集十九
四月を氣和且清緑槐
陰合沙堤 午り

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神の名残　西八条殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 細源氏
[illegible]
[illegible]
[illegible]

孟 物なきのうたのうよりあまりうまれたるのちのうまれたるのちのうまれたるのちの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことの[illegible]
[illegible]

仰 [illegible]と実は[illegible]
[illegible]で[illegible]の[illegible]を